

2 指導者養成講習会の開催

○二月十五日から二十六日の期間に次の六カ所に開催

平市、原町市、会津高田町、白河市、日和田町、桑折町

○参加者

公民館運営審議会委員の代表
婦人会員 農業改良普及推進員
(生活改善担当者)

食生活改善指導補助員 保健委員

その他一般

3 新生活運動実績展示ならびに発表大会

○地区大会 昭和三十一年十二月(翌年一月末日まで)県内二十五カ所に開催

○県大会 二月十、十一日福島市に開催

×新生活運動実績展示ならびに発表大会

×新生活運動研究協議会

五、この運動のために

わたくしたちの「くらし」を、少しでも明るく少しでも楽しいものにしたと願っていることは、どの人もどの人も同じことだと思ふ。しかし、どんな小さな「こと」が「ら」も、またどんな小さな「こと」が「ら」も、ただ急に偶然に生れてきたものではなく、むしろ長い間くりかえされてきただけに、それはそれなりに「合理性」と「必然性」をもっていったものと

思われる。

ところが、時代の推移と社会の進歩にしたがって、昨日まで差支えなかったものが、今日からはどうしても改めていかなければならない多くの「こと」が「ら」や「し」きたりがある。たとい一人や二人の勇敢な掛け声だけでは全くどうにもならない「抜きさしならぬ」ものだと思われることでも、三人寄り四人寄りして話し合いを進めていく中から少しずつ改めていかれるという確信を燃やして、この運動を展開していききたい。そのためには大

第一〇節 ま と め

青少年指導といえ、一般世人はまず何といつても頭に浮ぶのは「青年団」それから「青年学級」である。そして都市ならばこれに「技能者養成講習」というのがプラスされる。だから、青年団の運営をどうするかとか、青年団のリーダー養成講習を計画するか、そういったことはどの市町村でも企てられてきた。だが、三十一年度までに気づいたことは、青年団に青年のすべてが入っているわけではないという極めて当りまえのことである。ことに、今までの一万くらい

の人口をもっている町からそれ以上の大きな市などで、青年団活動が不活発で非常に困るといふ声を聞いてはいたが、今度の町村合併で従来の農村もずっと都市に接近して、少くとも今までのようには安易に青年団を運営していけるとは限ら

きなことを願わず、足もとの小さなことから解決していくのがよいのではないだろうか。

そういう足もとの身近な問題をみつげ出し、話し合い、解決をはかっていくことがこの運動の大きなねらいのわけである。

そのために先にあげた構成団体がそれぞれの分野で働きかけ、解決への糸口をみつげ出していくことが必要のように思われる。

春時代が磨り減らされていいものだろうか。もつと生活を豊かにするためには、生産への学習とともにその生産をより意欲的たらしめる何ものかがなければなるまい。青少年指導は、だから小さなグループの活動を守り育てていくという方向に向き、それだけ従来よりは困難になってきたともいえる。ある老人は、町村合併とともに青年団も統合しろという。もちろん青年たちは新しい町村をつくりだすために大同団結することを拒みはすまい。しかし「うどの大木」のようにも小さなグループで活動した方がずっと効果的だということを知っている。だから、大きくまとまるという一つの方向と、小さなグループで活発に活動するということは、決して矛盾するどころか却ってこれからの団体活動の正しい在り方ではないかという反省をしている。つまり細胞活動を活発にしようではないかということである。手足の活動が鈍くは体全体が活発に活動できると思われない。大きい体であればあるほど小部分の活動が活発敏速にならなければならぬ。大同団結の前に、小さなグループの活動が活発になることはきわめて自然のなりゆきではあるまいか。

婦人指導ということを取り上げて、従来はすぐに「婦人会」それから最近ならば流行の「婦人学級」あえて流行といったが、それには「わけ」がある。婦人の勉強の仕組はどこでどんなことをしようがすべて婦人学級だからである。